

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400425		
法人名	社会福祉法人峰寿		
事業所名	グループホームゆりの家3号館		
所在地	〒037-0202 青森県五所川原市金木町字芦野200番地242		
自己評価作成日	平成30年4月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>等ホームは徒歩2～3分程度に、芦野公園があり、四季折々の自然が身近に感じる事ができる環境に恵まれております。又、母体の介護老人保健施設をはじめ、有料老人ホーム・訪問看護・介護等各種介護サービスが提供でき、利用者様を総合的に支援しております。又、天然の温泉があり、いつでも入れる状態となっております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や共同スペースに掲示し、唱和している。又、ネームケースに入れ常に理念を意識しながら、より良いサービスが提供出来るように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の広報等、配布して頂いています。町内から離れている事もあり、密な交流は図れていないが、通院やスーパーでの買い出し等は、特別な理由がない限り地域を利用しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症を議題にする事はありますが、地域の方の参加がなく、活かせない状態です。ホーム便りや行事等で地域の方と交流を図り、貢献できるように努めていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでの様子や行事等の取り組みを報告したり又、入居されてる方ばかりではなく、ご家族や参加されている方に理解して頂く為に、認知症をテーマにした議題やケガ又、身近に起こりうる病気を議題し発表しています。会議での話し合いで、さまざまな意見やアドバイスを頂きサービスの向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、運営推進会議や必要に応じて電話にて助言・ご指導頂き、時には、窓口へ出向き直接ご指導頂く機会もあります。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修などで周知していますが、夜間など手薄になる際などは、防犯面も考え施錠している。又、現在まで活用はしたことがありませんが、入居者様の状態によってやもをえず拘束しなければならぬ場合等は入居者様や御家族に同意を得る体制となっています。		
		管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修を通し学ぶ機会を設けている。又虐待についてのマニュアルがあり、1年に一回は虐待についての勉強会を実施している。入浴時のボディチェック等、日頃より、虐待が見逃されようように注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用されている方や以前に成年後見制度にを利用されてる方もおり、関係者との連携を図り支援しています。ホームでの勉強会実施し職員に周知し、ご家族や利用者に説明出来る様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要説明書等で十分説明を行い、疑問点などは口頭での説明を行い、理解して頂いてから、契約して頂いてます。退所後も同様に説明を行います。又、場合によっては、他事業所と連携したりと個々に合わせた支援をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、入居者様やご家族が意見や要望出しやすいように働きかけております。又、スタッフルーム入口に「困りごと相談」と掲示しいつでも対応出来る様にしています。ご家族の場合では面会の際に、話を伺い意見や要望があれば、職員間で話し合い、早急対応し解決できるように心掛けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、会議の際、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。代表者には、意見や提案を口頭や報告書等で報告しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場の状況、職員の日々の努力や勤務状況を把握し代表者に報告している。資格保有者に対し手当の配慮がなされています。役割が職員それぞれにあり向上心がもてる様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じた研修会に参加し、研修で得た知識を勉強会で報告している。又、資格保有者による勉強会を定期的に行い、知識や技術の向上に繋げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所へ訪問したり、連絡を取り、情報交換を行っている。ケアの仕方や運営等を参考にし、実践に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームでは御利用頂く前には、必ず御本人や御家族と面談や見学を通し、不安な事や要望を聞き、安心して利用して頂けるようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた際に、御本人様や御家族の方と面談し、不安を解消して頂いてから、御利用して頂きます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、御本人や御家族が「今、一番困ってるか」を伺い、御本人・御家族にとって、一番適したサービスを提供出来る様に心掛けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事(や昔ながらの風習又は、提案を聞きながら互いに支えあい、より良い関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の他に、行事や受診など御家族と一緒に過ごす時間を多く持てるように、連絡する場合がありますが、ホームで生活している事で安心して下さってるのか任せて頂くケース多く見られています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様全員ではありませんが、馴染みの方が面会に来て下さる方や手紙や年賀状での近況報告して下さい方もおり返信のお手伝いをする場合があります。又、地域の病院へ行った際や買い物に行った際等馴染みの方と会話が弾む事もあり、そういった場合にはゆったり会話ができるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う・合わない人を把握し利用者様が孤立しないよう集団レクなど(行事や軽作業)を通し利用者様同士交流がスムーズに図れるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化により母体(老健)や他事業所へ移動が必要になった場合や自宅復帰した場合等、退所の際に今後も相談にのる旨をお伝えしており退所後の支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、コミュニケーションを多くとり、希望や意向を把握するよう努めております。困難な場合は、日頃の言動や表情を見て職員間で検討している。又、面会に来た際にご家族からも聞き取る場合もあります。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人や御家族や担当ケアマネより情報を頂き把握しています。又、入所後は、センター方式を利用しながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録やセンター方式等で毎日の状態を記録し、入居者様一人一人の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際に、御本人や御家族の希望を第一に考え、本人にとっての必要性話し合い、計画に活かしております。又状態に変化があった場合は、会議を行いその状態に合わせた介護計画を作成しております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、申し送り等で情報を共有し、状態の変化が見られた場合は介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や御家族の要望・身体状態の変化等に応じています。買い物等すぐに対応できる場合は迅速に対応しています。又、身体・経済面など当ホームで対応できない場合、他事業所と連携しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向や必要性に応じた関係機関と協力しながら支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や御家族の希望する病院へ通院しております。御家族と一緒に付き添い通院する場合もあり、御家族や医師と連携を図りながら支援しております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である老建の看護師や協力病院の看護師に連絡し、で身体状態の変化を報告し適切な対応が出来る様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際でも、定期的に面会へ行き、医療機関や御家族から病状の状態を把握しており、医師や病院内にある地域連携室の担当者と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化・終末期の話をしており、方針や要望を聞き取っています。必要に応じては、医師との連携を図り取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避応急手当や初期対応の研修を行っています。マニュアル化したり壁に貼り出し、事故発生時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っています。夜間を想定した訓練も行ない非難場所までの誘導や緊急連絡網での連絡を行っていますが、地域との協力体制には至ってない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉や態度に気をつけ、自尊心を気付けないよう心掛け対応しています。介護時等は利用者様の羞恥心やプライバシーに配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを多く取る事で、利用者様の思いや希望を知り、スムーズに意思表示ができるよう又、自己決定できるように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間、余暇時間等、個々のペースに合わせてサービスを提供させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は、地域の美容院に委託していますが、利用者様の希望があれば、行きつけの美容院へ行く事もあります。衣服に関しては、季節にあった服装や好みの服装を利用者さまが選び着用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様、全員ではありませんが、食後の下膳や食器拭き、テーブル拭き等、職員と一緒にしています。食事中も味付けや調理法の話又、御家族の差し入れをお裾分けしたりと、いい雰囲気です。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士によるバランスの取れたメニューになっており、毎食後に、食事量や水分量を記録しております。主治医より指示があった際は、カロリー調節を行い健康管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前にうがいを行い、食後には、口腔ケアを行っています。出来ない部分は介助を行ない清潔保持に繋げています。又定期的に歯科医による義歯の洗浄が行われています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	訴え時や定時のトイレ誘導を行っています。又、排泄動作の際は、出来るだけ自力で行って頂くよう声掛けを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を議題にし勉強会を行っている。水分補給をこまめに行い適度な運動を心掛け又、手軽に出来る便秘体操を壁に掲示し余暇時間に行っており便秘解消に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週に2回と設定していますが、希望がある利用者様には、曜日に関係なく入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活のリズムがあり、就寝時間は、利用者様自身が決めています。消灯時間でも眠れない場合などは、無理に寝せる事はせず、見守りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の生活記録に調剤からの、処方内容を綴っており、いつでも確認できるようになっています。服薬については、手渡しで服薬が可能な方や介助が必要な方等その方にあつた服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様全員ではありませんが、自室やホールの清掃が日課になっている方や食後のテーブル拭きが日課になっている方や、体調に合わせてですが身の回りの事は出来るだけ自分で行いたいと、掃除・洗濯・リネン交換等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時ではないが、できる限り御家族に協力して頂き、自宅へ帰省したり買い物に行かれています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は、所持していますが、出来ない方には、買い物の支払いの際にお金を渡し、支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などの要望する方は少ないですが、希望する方がいる場合は対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と職員が作った四季折々の作品や行事の際の写真を貼りだしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過されていますが、場合によっては、職員が交流の支援したり、席替えを行う場合もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、自宅で使用していたお茶碗や箸又家具や壁掛け等、なじみのある物持ってきて頂いており、居心地よく過ごして頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間の説明は文字や矢印で表記し廊下やトイレには手すりを設置し安全に配慮しています。居室内は利用者様の状態に合わせた家具の配置になっており転倒等の事故がないよう心掛けている。		